

## 授業づくり

## 〇個の違いへの対応

〇聴覚からの情報が得られにくい児童生徒への支援

- ・口形をはっきり示し、ゆっくり話すようにする。

【なぜこの支援が有効になるのか】

理解しやすいとされる話すスピードは1分間に400字程度と言われている。しかし、聴覚からの情報が得られにくい児童生徒はそれでも速いと感じるだろう。指示の内容を反芻している間に次の指示を聞き流してしまうこともある。そこで教師が話す際に口形をはっきり示し、話すスピードをゆっくりにすることで児童生徒が指示を理解しやすいのではないかと考えた。

〈支援・指導の実践例〉

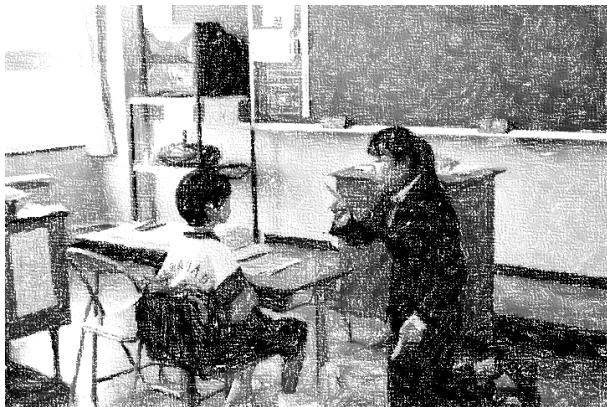
〇話し方について

- ・口形をはっきりさせて話すように意識する。
- ・母音の発音を意識して行う。
- ・文節で区切って話すようにする。
- ・指示を出すときは簡潔にする。
- ・児童生徒の語彙力に合わせて表現する。



〇話す位置や目線について

- ・できる限り児童生徒の正面で話す。
- ・児童生徒の目線に合わせる。
- ・児童生徒が自分の顔や口元を見ていないと感じたら、見るように注意を促す。
- ・話をするときには児童生徒に背を向けたり、歩きながら話したりしないようにする。



～ポイント～

- ・難聴の児童生徒である場合は、文節の始めを指文字で示すとよい。
- ・話す内容によって表情を変えるとよい。
- ・指示の内容を児童生徒に自分の言葉で確認させる。